

ふるさとと探訪

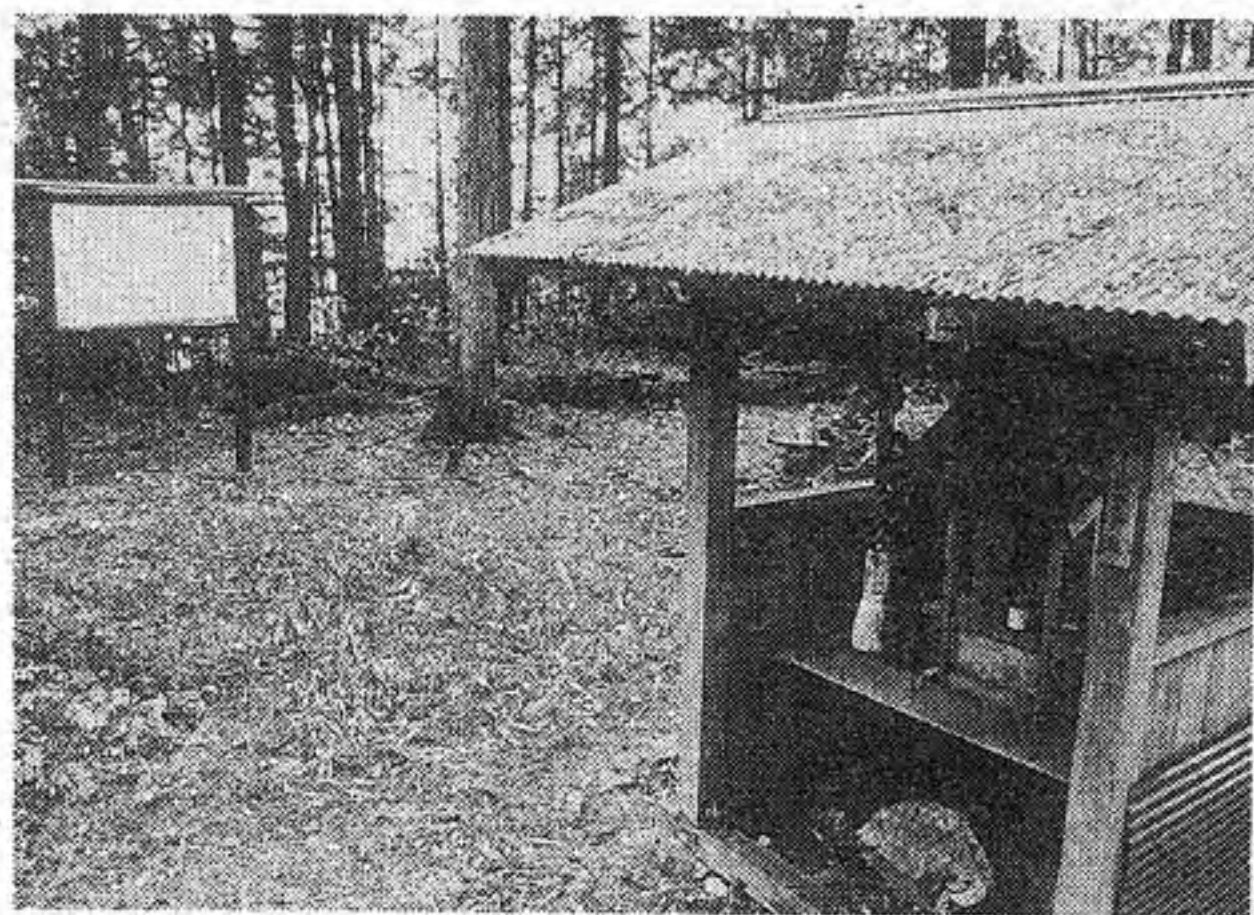
[22]

能の敦盛「人間五十年、
下天の内をくらぶれば夢幻
のごとくなり、ひとたび生
を得て滅せぬもののあるべ
きか」の一節がより現実

味を帯びていたであろう下
克上の世、戦国時代。その

甲ヶ岳城跡

大島町



秋葉神社(手前右)が建つ現在の山頂。今は木々が
生い茂っているが、ここからは綾部盆地が一望で
きる=写真はいずれも大島町で

激動の時代にあつて「人間
五十年」にも満たず、築城
からわずか十五年でその姿
を消した城が大島町の甲ヶ
岳にあった。

甲ヶ岳(二八九)は鴻
ケ嶽とも書き、「こうがだ

築城わずか15年で陥落

激動の戦国時代に姿を消す

細川氏の家臣 内藤氏が築く

五年という城の歴史は閉じ
られた。

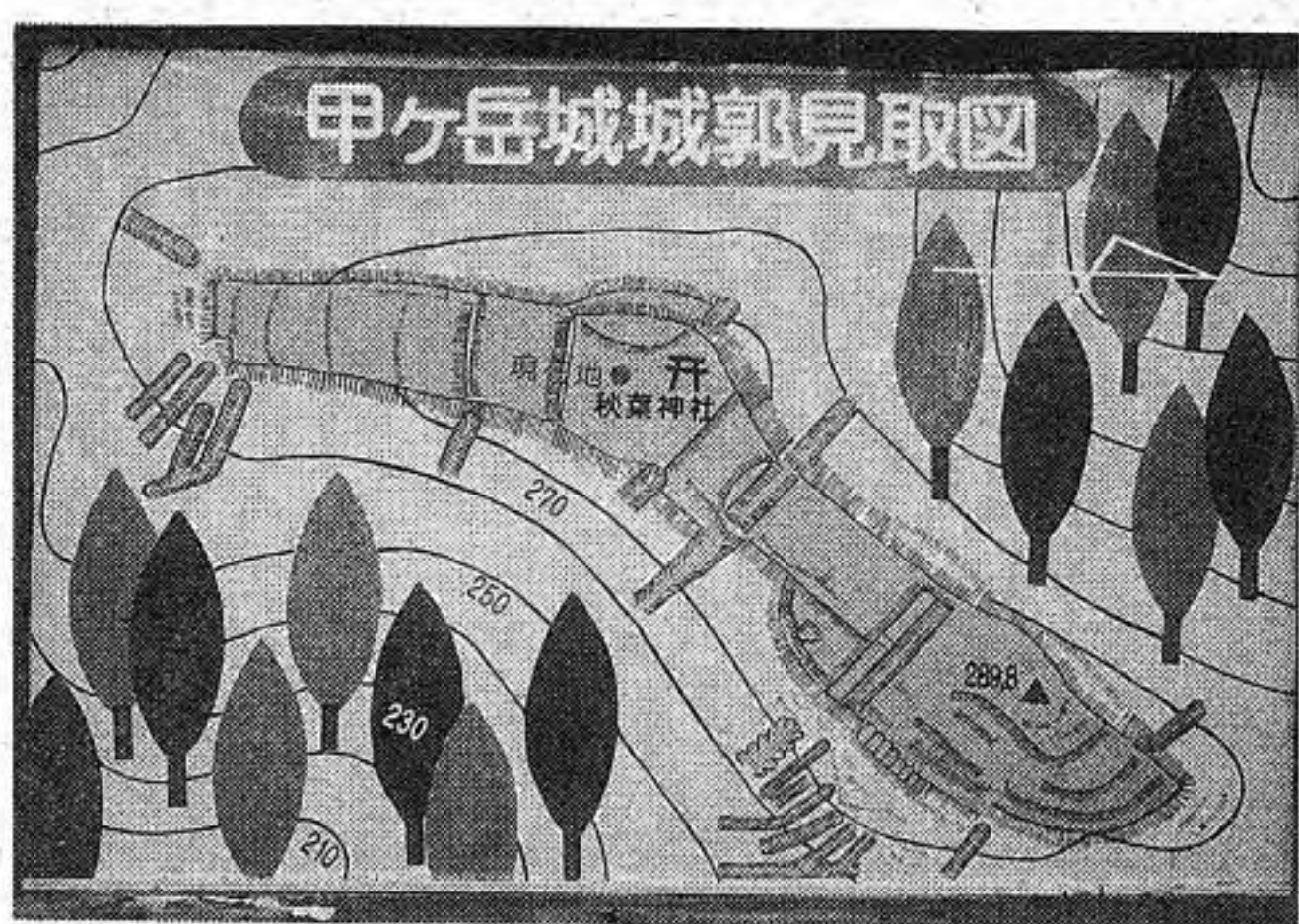
この城は連廊(かく)式

大島町誌によると甲ヶ岳
山頂に戦国時代末期の永祿
七年(一五六四)、丹波の
守護・細川氏の守護代で
あつた船井郡の八木城主・
内藤備前守宗勝が一族の内
藤日向守正綱に命じ、福知
石町)と位田城(位田町)

山や綾部への進出を企てる
ための支城を築かせた。

け」とも「かぶとがだけ」
とも言われている。山頂に
は文化三年(一八〇六)に
創建された火産靈神を祭神
とする秋葉神社が祭られて
いる。同神社は大破に伴い
天保三年(一八三二)に社
殿を再建。その後、老朽化
したため昭和五十八年に故
・大島房次氏の奉納で建て
替えられた。

と並んで何鹿郡の三大山城
の一つに挙げられている。
しかし天正七年(一五七
九)、織田信長の命を受け
た明智光秀は八木城の内藤
氏を攻め、城は城主以下討
ち死に。一門の内藤土佐守
正勝は甲ヶ岳を最後の拠点
にと考え落ちのびたもの
の、ここで討ち死にしたと
言われ、築城からわずか十
へ約三百五十。いざとい



大島SVクラブが山頂に設置した案内板。見取り
図に描かれている堀切の跡は、実際、素人目にも
それと分かるものもある

う時には、東を捨てて中央
を守る形になっている。さ
らに、南に向けていくつか
の縦堀が見られる。このこ
とから、上延町で現在、東
光院がある谷からの攻撃に
備えていたと思われる。落
城後から現在に至るまで、
新しい建物が建てられるこ
う時には、東を捨てて中央
を守る形になっている。さ
らに、南に向けていくつか
の縦堀が見られる。このこ
とから、上延町で現在、東
光院がある谷からの攻撃に
備えていたと思われる。落
城後から現在に至るまで、
新しい建物が建てられるこ

らは急な坂も多く、重い鎧
(よろい)を身につけた当
時の武者たちには、攻めに
くく守りやすい城だったこ
とがうかがわれる。また高
所の城であることから在地
領主の居城には適しておら
ず、前進基地的な役割を果
たしていたと思われる。

大島SVクラブ が案内板を設置

昨年十一月には、地元
の大島SV(シニアボラン
ティア)クラブ(岩崎秀夫
会長)によって山頂にこの
城の由来と地図が書かれた
案内板が設置された。同ク
ラブでは今年の春ごろまで
には、登山口にも同じよう
な案内板を設置する予定
で、地元・大島町の住民の
間でもその存在を知らない
人が多かったこの城跡は、
今後新たに脚光を浴びそう
だ。